令和５年度　大田区立糀谷小学校　自己評価　報告書

令和5年3月1日

○　本校の概要

1　令和5年度は、児童492人、正規の教職員24人で、大田区立学校として求められる教育活動を推進します。
2　糀谷小学校の教育は、人間尊重の精神を基盤に、郷土を深く愛し広く国際社会において信頼と尊敬を得られる、心身ともに健康で豊かな知性と感性にあふれた児童を育てると共に、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる、自主性と創造性に富む個性豊かな児童の育成をめざします。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０%以上が回答した。 ２：６０%以上が回答した。 １：６０%未満であった。	3.4	保護者アンケート「授業を通して、児童同士の交流が行われている。」について、肯定的に回答した保護者の割合	４：90%以上 ３：85%以上 ２：80%以上 １：80%未満	3	「とても思う」「思う」と肯定的に回答した保護者の割合は、87.4%(昨年85.1%)であった。 授業参観や児童の実際の声を通して、児童の交流の場面が盛んに取り入れる授業を推進していることが分かっている。 今後は、平日の授業公開で1,2年以外の参観者がほとんどいないことへの解決策を考えたり、土曜日の公開授業の工夫をしたりして、保護者に児童同士の交流を確実に見ていただくようにしたい。	A	7	○高学年になればなるほど、子供同士の交流が上手な気がする。低学年は、自分の意見を上手につたえることが難しい児童もいるように思える。 ○土曜日の公務はなくても。 ○子供も自宅で話してくれている。 ○学校公開などで、各学年を見学させていただいたとき、児童がみんなで話し合っている姿を見て、友達の意見などを聞いてまとめたりしていて、とても良いことだと思いました。 ○多彩な取り組みを通して、学校側の努力を評価しております。余裕がないとは思いますが、土曜日の公開授業やハンディキャップを持つ方々との交流にも少し目を向けていただければ、幸いに存じます。 ○公開授業において、交流が行われていることを感じた。平日については仕方ない点もあるが、3年以上の児童にとっても保護者の目は刺激になることが多いので、工夫してほしい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	４：全教員が行った。 ３：８０%以上の教員が行った。 ２：６０%以上の教員が行った。 １：６０%未満であった。	2.7					B	4	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ＩＣＴ機器を活用した授業を実施する。	４：８０%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 ３：７０%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 ２：６０%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 １：６０%未満であった。	3.2							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	４：対象となる全学級（全教員）で行った。 ３：８０%以上で行った。 ２：６０%以上で行った。 １：６０%未満であった。	3.2					C	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3							
		児童同士で話し合ったり、みんなの前で発表したりする学習活動を実施し、児童の周りと関わり合う意欲、コミュニケーション能力の向上を図る。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.3					D	0	
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	４：対象となる全学級（全教員）で行った。 ３：８０%以上で行った。 ２：６０%以上で行った。 １：６０%未満であった。	2.9	保護者アンケート「教師は、タブレットや電子黒板等のICTを活用するなど、児童が分かりやすい授業を行っている。」について、肯定的に回答した保護者の割合	４：85%以上 ３：80%以上 ２：75%以上 １：75%未満	3	「とても思う」「思う」と肯定的に回答した保護者の割合は、84.2%(昨年87.0%)であった。 ICT機器を用いる授業が当たり前になってきている。その分、分かりやすさについては、子どもからの実際の声や日々の課題やワークテストなどの結果から知ることになる。児童にとって分かりやすい授業を今後も展開しつつ、その状況が保護者に周知されるような工夫が必要である。	A	7	○ICT機器での説明もよいが、授業によっては先生が実際に行って見せることも大切なのではないかと思う。危機に頼りきりになってはいないかと思われる故おtがあった。 ○ICT機器は今後も。 ○実際に公開授業で、見させていただいて、わかりやすかった。 ○今年度の個人面談で、学習チェックシートを見ながら説明していただいて、とても分かりやすかったです。 ○ICTの活用は不可欠で、児童の理解度を着実に伸ばしてほしいと思います。 ○時代の流れではあるが、タブレットなどのICT機器にウエイトが大きくなることが心配である。人と人、先生と児童などということを考えるとである。児童がタブレットでネットを家庭でも見ているとの声を聞く。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	４：学期に２～３回知らせた。 ３：学期毎に知らせた。 ２：年度間に１回は知らせた。 １：お知らせできなかった。	2.9					B	3	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	４：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 ３：８０%以上の教員が働きかけた。 ２：６０%以上の教員が働きかけた。 １：６０%以下の教員が働きかけた。	3.3							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０%以上が回答した。 ２：６０%以上が回答した。 １：６０%未満であった。	3.2					C	1	
		授業運営において、校内研究の「先行学習」と問題解決学習を併用し、児童の理解度に応じた柔軟な指導を行う。	４：全教員が行った。 ３：８０%以上の教員が行った。 ２：６０%以上の教員が行った。 １：６０%未満であった。	2.9					D	0	
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	４：全教員が行った。 ３：８０%以上の教員が行った。 ２：６０%以上の教員が行った。 １：６０%未満であった。	3.1	児童アンケート「自分にはよいところがあると思う。」について、肯定的に回答した児童の割合	４：90%以上 ３：85%以上 ２：80%以上 １：80%未満	1	児童アンケート「友達のだれとでも仲良くできる」では、86%以上の児童が肯定的な回答をしているのに、自分のよさについては、1～3年75.5%、4～6年78.3%と低くなっている。自分について謙遜している姿とも考えられるが、自己肯定感、自己有用感を高められるように、授業を中心として、学年、学校全体の活動を通して、児童を育成していく。学校としてさらに努力できることを進めていくとともに、家庭や地域と連携して自己の良さを体感できる特別授業等を考えていく。	A	3	○たくさん褒めたいところがあるが、昭和に育った親にとっては肯定されて親に育てられた記憶がない。子どもと、ほめるときの自分の価値観でもめてよいものなのか。 ○自己肯定感などを図る指標として、目標値が高いように思われる。（謙遜した回答であることを考慮して。） ○自分の良さの質問に対しては、具体的な項目もあってもよいと思います。(学習・運動・遊び等) ○子供ができたことがあったらほめてほしい。 ○今年度は、地域の活動に参加をさせていただきましたが、子供も友達と学校の外で会うことで、仲良くなれたりできていた。 ○成果評価「１」は重点的に取り組む課題であると考えます。「自己肯定感」などは、当たり前のことですが、児童の前でほめてあげること、具体的に何が良かったのか、どうするとさらに伸ばしていけるのか等を実践的に進めることだと考えます。 ○最近の児童は自分自身に自信がないのか、アピールが弱い気がする。失敗を恐れずに積極的になってほしい。失敗したときには　フォローすることを忘れずに。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	４：学期に２～３回（年間６回）以上行った。 ３：学期に１回（年間３回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	2.9					B	6	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：８０%以上の教員が回答した。 ２：６０%以上の教員が回答した。 １：６０%未満であった。	3.2							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：８０%以上の教員が回答した。 ２：６０%以上の教員が回答した。 １：６０%未満であった。	3.3					C	2	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	４：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 ３：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 ２：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 １：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3.3							
		地域の施設を活用したり、地域の人をゲストティーチャーやボランティアとする授業を計画・実施し、地域とともに歩む教育を向上する。	４：全教員が行った。 ３：８０%以上の教員が行った。 ２：６０%以上の教員が行った。 １：６０%未満であった。	3.1					D	0	
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.4	保護者アンケート「学校は、コロナ対策をしながら、心身の健やかな成長のために体を使った体育健康教育を行っている。」について、肯定的に回答した保護者の割合	４：85%以上 ３：80%以上 ２：75%以上 １：75%未満	3	「とても思う」「思う」と肯定的に回答した保護者の割合は、81.7%(昨年85.0%)であった。コロナ禍が明けたものの、数字が下がった。運動会や体育朝会、体育・健康教育授業地区公開講座など、公開し、実践しているものの、肯定的な回答は昨年度以上に得られていない。	A	8	○授業数がぎりぎりの中、体育の時間は天候などにも影響を受けやすい。教育長懇談会でも上がったが、プールの時間をもう少し長くしたりできないものか。「働き方改革」プールの時間も採れない。以前は6年生は25m泳げて卒業させていた。保護者の意見は、「働き方改革」という言葉に邪魔される。 ○早寝・早起き月間」などあると、子供たちも気を付けて、生活面を正しく学んでいた。 ○心身の健やかな成長は、児童にとって重要な課題であり、機会があれば緑豊かな広々とした場所で思い切り活動させてあげたい。 ○自分的にはコロナが明け、努力しているように思える。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.1					B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.1					C	1	
		校庭の広さを利活用した授業を行い、児童の体力向上、健康の増進に努めた授業や学校行事を計画、実施する。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.1					D	0	
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０%以上の教員が回答した。 ２：６０%以上の教員が回答した。 １：６０%未満であった。	3.2	児童アンケート「学校が楽しい。」について、肯定的に回答した児童の割合	４：90%以上 ３：85%以上 ２：80%以上 １：80%未満	3	肯定的に回答した児童の割合は、1～3年90.5%、4～6年88.1%であった。昨年度由も大きく向上したことは評価したい。教職員にとっても、働きやすい、自分の良さを理解してもらいやすい職場づくりが大切である。両方を意識した学校経営を行っていく。	A	7	○放課後の公園でのトラブルまで先生方がかり出される　される。その時間、先生方の仕事を奪ってるのではないのかと思う。働く親が多い中、トラブルが起きたとき、頼れる大人は先生たちになってしまうのが申し訳ないと思っている。 ○特別支援教育をもう少しできたらなと思います。 ○教職員の皆様の厳しい勤務状況は、十分理解しています。明日を担う児童のため、質の高い教育と、笑顔は常に求められますので、よろしくお願いします。 ○児童にとっても教職員にとっても学校が楽しいと感じることは大事である。努力していることはわかるが、常にゴールはないものなので、これからも日々努力してほしいと思うし、協力していきたい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	４：学期に２～３回（年間６回）以上行った。 ３：学期に１回（年間３回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	3.4					B	3	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	４：「おおむねできた」と全教員が回答した。 ３：８０%以上の教員が回答した。 ２：６０%以上の教員が回答した。 １：６０%未満であった。	3.1					C	1	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	４：月1回以上行った。 ３：学期に2～3回行った。 ２：学期1回以上行った。 １：実施しなかった。	3.1							
		校内のOJT研修に講師または受講者として参加し、授業改善につなげた。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.2					D	0	
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	４：月1回以上更新した。 ３：学期に2～3回更新した。 ２：学期1回以上更新した。 １：更新しなかった。	3.2	保護者アンケート「学校は、学校だよりや学校ホームページなどの情報で、学校の様子が分かるようにしている。」について、肯定的に回答した保護者の割合	４：85%以上 ３：80%以上 ２：75%以上 １：75%未満	3	肯定的に回答した保護者の割合は、81.7%(昨年度86.3%)であり、評価の数値は下がった。 ・行事の連絡が直前であったこと ・学級閉鎖の情報提供を拡大すること ・電子媒体での学級通信・学年通信の配布 ・より詳細な学校だよりやホームページの作成 ・学級通信の発行 等が自由意見で述べられていた。過度に追加していくことはできないが、現状の中で、工夫・改善できることを実施していく。	A	7	○地域に協力しようという言葉は聞かれますが、まったくその様子がうかがえない。地域とは保護者も地域の一員と思っている。イベントに参加すればよいのではなく、地域の方と顔をしっかりと認識して、こちらから歩み寄らなければ、ならないと思う。たくさんの方々と話をする中で、。誰に何を相談するのがベターなのかが見えてくると思う。ロビー活動がしっかりできてこそ、情報の発信ができると思う。子供たちにおきた変質者情報などもきちんと情報の発信がまったくされない、不信感ばかりの一年であった。来音が心配です。（コーディネーターが辞意を示した時、過去の校長たちは電話して説得にあたっていました。） ○コロナ後に通常の態勢に戻り、学校運営上が行われる中、試行錯誤して対応してきており、評価が下がるのはやむを得ない面もある。 ○行事の詳細など、もう少し早くほしいとほかの人からの声が多い。 ○保護者会が1・3・5年、2・4・6年に一度にやっていただくのはありがたいのですが、時間を少しづらしてほしい。2歳差が多いので、先生方の話が聞けない。15分～20分くらいでも。 ○伝達方法の明確化・迅速効率化などをさらに工夫・改善を図ってほしい。 ○学校に関心がある保護者とない保護者とでは、温度差があると思う。学校側は工夫していろいろ改善もしているように思える。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	４：毎回情報を提供した。 ３：おおむね情報を提供した。 ２：あまり情報を提供しなかった。 １：情報を提供しなかった。	3.3					B	3	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	４：学期に2～3回行った。 3:学期１回以上行った ２：年１回以上行った。 １：実施しなかった。	3					C	0	
		児童に地域行事の周知や参加を呼び掛けたり、自らが参加したりすることで、地域への愛着を育てる指導を行う。	４：全教員で行った。 ３：８０%以上の教員で行った。 ２：６０%以上の教員で行った。 １：６０%未満であった。	3.2					D	1	

○「成果評価」は、各校が４段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価はおおむね適切である　Ｃ：自己評価は適切ではない　Ｄ：評価は不可能である　の４点について、 評価し